

電気通信大学 平成17年度シラバス

授業科目名	現代科学技術論		
英文授業科目名	Modern Science and Technology		
開講年度	2005年度	開講年次	2年次
開講学期	3学期	開講コース・課程	昼間コース
授業の方法		単位数	2
科目区分	専門科目-学科専門科目-選択必修科目		
開講学科・専攻	人間コミュニケーション学科		
担当教官名	H科全教員		
居室			

公開E-Mail	授業関連Webページ
nakajima@hc.uec.ac.jp	

【主題および達成目標】
<p>この科目は人間コミュニケーション学科の基幹科目のひとつで、1年次の基礎セミナーに引き続いて、学科教員が(交代で)担当します。3学期終了後、学科教員がオムニバスで行う講義です。 この科目の目的は以下の通りです。</p> <p>1)「コミュニケーションをめぐる科学技術とその社会的・文化的応用」という学科の中心的な教育・研究領域に関して、先端的な知・問題群を学習する。 2)あわせて各講座・研究室でおこなわれる専門研究を概観する。 3)これによって、高年次における勉学へのイントロダクションとする。</p>

【前もって履修しておくべき科目】
特になし

【前もって履修しておくことが望ましい科目】
特になし

【教科書等】
個別に教員から資料が配布されることがある。

電気通信大学 平成17年度シラバス

【授業内容とその進め方】

2005年度は、集中講義のかたちで授業をおこない、人間コミュニケーション学科を構成する3領域「社会コミュニケーション学」「メディアコミュニケーション」「科学技術コミュニケーション学」のそれぞれに関して、講義・演習等をおこないます。

1) 9月20日：社会コミュニケーション学

渡邊成良：IT社会とコンピュータネットワーク

大鋸順：地域システム論

中島義道：情報倫理の諸問題

梶浦篤：コンピュータをめぐる日米間系

2) 9月21日：科学技術コミュニケーション学

吉浦裕：情報とセキュリティ

田中勝己：SerendipityとFraud

中嶋信生：携帯電話の将来と課題

深澤浩洋：テクノロジーと遊び

3) 9月22日：メディアコミュニケーション学

児玉幸子：現代科学技術によって作られる環境

佐山弘樹：柔らかい機械としてのコンピュータ：その根底にある思想と今後の可能性について

兼子正勝：メディアのコンテンツデザインの基本的な考え方と現代的な課題

ディスカッション

【成績評価方法及び評価基準(最低達成基準を含む)】

評価は出席とレポートでおこないます。

1) 出席：履修者は原則としてすべての講義に出席すること。

2) レポート：締め切りは9月30日(厳守)、提出は西6号館7Fレポートボックス

3) 課題：

授業で取り上げたトピックのうち2つ以上を選んで、それぞれについて

a)講義から理解したこと、b)理解をもとに自分で考察したこと、

の2点を、なるべく具体的な例を挙げて述べなさい

4) 分量：それぞれのトピックについてA4*1枚(約1,000字)以上(計2枚以上)

5) その他：それぞれの講義でとくに指示がある場合は、それにしたがうこと

【オフィスアワー：授業相談】

電気通信大学 平成17年度シラバス

【学生へのメッセージ】

【その他】